「南仏とケベックのフランス語変種における音声特徴」

近藤野里（名古屋外国語大学）

フランス語は、様々な地域と社会において実際に使用されている複数の変種を持つ。フランス語の発音およびその規範は少なくとも17世紀から議論され、記述が行われてきたものである (cf. Morin, 2000)。ただし、この理想的な規範から少々、もしくは大きく外れる変種への関心が体系的な記述的研究に発展するのはMartinet (1945)以降であろう。また最近の研究には、可能な限り多くのフランス語の変種に対する体系的調査を行うプロジェクトとしてPFC（Phonologie du Français Contemporain現代フランス語の音韻論）が挙げられる。本発表では、PFCプロジェクトの研究成果として出版されたDetey *et al* (2010)を参照しつつ、南フランスとカナダのケベック州で話されるフランス語の音声的特徴について説明する。南仏のフランス語の特徴として、位置の法則に従う中舌母音の分布、鼻母音の4つの対立とその音声実現、シュワーの発音などが挙げられる。また、ケベックのフランス語では、長母音の保持、閉音節における狭母音の弛緩化、歯茎音の破擦音化など特徴的である。

Detey, S., Durand, J., Laks, B. & Lyche, C. (éds). (2010). *Les variétés du français parlé dans l’espace francophone*. *Ressources pour l’enseignement*. Paris : Ophrys.

Martinet, A. (1945, 1971). *La prononciation du français contemporain*, *Témoignages recueillis en 1941dans un camp d’officiers prisonniers*. Genève : Librairie Droz.

Martinet, A. & Walter, H. (1973). *Dictionnaire de la prononciation française dans son usage réel*. Paris : France Expansion.

Morin, Y. -C. (2000). Le français de référence et les normes de prononciation. *Cahiers de l’Institut de linguistique de Louvain*, 26 (1), pp. 91-135.

Walter, H. (1976). *La dynamique des phonèmes dans le lexique français contemporain*. Paris : France Expansion.

Walter, H. (1982). *Enquête phonologique et variétés régionales du français*. Paris : PUF.